



ライオンズクラブ国際協会
336-A地区 2R4Z

2013-2014

西条

SAIJO LIONS CLUB

2
No. 440

Topics

1月第1例会（清祓いの儀）
冬期YCE事業イタリア派遣を終えて
クラブ会長会員増強セミナー受講報告



2013-2014 年度ライオンズクラブ国際協会会長



パリー・J・バーマー

テーマ

夢を追いかけよう

2013-2014 年度ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区ガバナー

松 前 龍 宗

スローガン

ときめく 明日へ WE SERVE

キーワード

「真価發揮」



2013-2014 年度 2R4Z 西条ライオンズクラブ会長

原 育 雄

スローガン

人と大地に優しく WE SERVE

新年初例会～清祓いの儀～

2014年1月7日（火）於～石鎧神社

本年第1例会を石鎧神社会館にて開催いたしました。

また、年賀を迎えたメンバーをはじめ、会員の健康と西条ライオンズクラブの発展を願い清祓いの儀を執り行いました。皆さんと心を合わせ、力を合わせ、奉仕に努めたいと思います。





2013年度 YCE 冬期派遣生報告 ～「イタリア派遣を体験して」～

YCE派遣生(IT-8) 高橋顕典

私はライオンズYCE派遣生として12/20～1/10までの約三週間イタリアに留学させていただきました。約20日間の間に、3回生活拠点が変わるので、最初にキャンプとホームステイをした場所はイタリアのシチリア島のピアッツア アルメリーナというところでした。

この島には5つの世界遺産がありますが、ピアッツア アルメリーナでは、そのなかの1つ、ローマ皇帝のカザレ別荘の遺跡を見学しました。他の遺跡も、神殿群や、バロック様式の町々など、歴史的で重厚な雰囲気の漂う素晴らしいところでした。

私が見て回った地区は、家々が密集しているため道が狭く、信号もありませんでした。この町にあるライオンズのクラブハウスは、ほかの日本人派遣生一同、すごいところにあると驚いてしまうような素敵なお庭内にありました。イタリアの人達はとても陽気かつフレンドリーに接してくれて、すぐに打ち解けることができました。ホームステイは二軒行かせてもらったのですが、二軒とも大変気を使っていただいてすごく充実した生活を送ることができました。



この写真は一軒目のピアッツア・アルメリーナのホストファミリーです。もう一人、写真にはいませんが息子さんがいます。このお宅には佐賀県からきた一つ年上の秀島浩平さんと一緒にホームステイをしました。私にとっては生涯初のホームステイでしたので、初めは戸惑いがありましたが、娘さんのロッセーラにイタリア語を教えてもらったり、学校のパーティーに連れて行ってもらったり、とてもよくしていただき、おかげで家族の皆さんと楽しい時間を過ごすことが出来ました。



移動中のバスの中でワイワイ



イタリアンジェラート



ロッセーラのいとこたちと一緒にパチリ

この人たちとは二軒目のマラネッロのホストファミリーの息子さん(私の前に白と黒のパーカーを着ている人)のガブリエルとその友達です。マラネッロは、イタリアを代表する自動車メーカーのフェラーリの本拠地でもあります。12/30～1/4までの五日間、このメンバーと一緒にいました。

みんなすごく日本のこと興味を持っていて、何かあるごとに「日本語でこれは何というんだ?」と聞いてきましたり、とてもくだらないことをしてみんなと常に笑っていました。

このメンバーにはすごくお世話になり、最終日に全員でサッカー&ピザパーティーというなんともイタリアらしい【さよならパーティー】を開いてくれました。

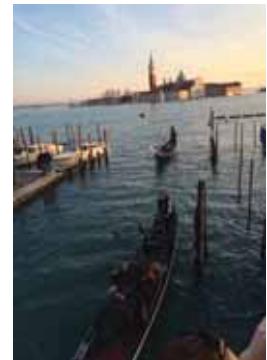
みんなすごくサッカーがうまい!ピザ、パスタが大好きなんです。毎日食べてました。五日間という短い間だったのですが、このメンバーにあえて本当によかったです。日本に帰りたくないと思ってしまいました。



トレビの泉の前で



IT-9の近藤さんのホームステイ先へお邪魔しました



ベニスにて

最後の1/4～1/9までのフローレンス(フィレンツェ)を拠点としてのキャンプもイタリア本土の有名なところ(ローマ、ピサ、ヴェネツィア等)に行くことができ、イタリアを満喫出来ました。

今回のイタリア留学を通しては、まだまだ書ききれないほどの、有意義な経験をすることができました。反省として、次に外国に行くときは是非、英語又は現地の言葉を勉強して行きます。

十分喋ることが出来なくてもコミュニケーションは取れますか、話すことができたならもっと充実した旅行になるのは確実なのですから。

最初は英語が伝わるのか、生活していくのだろうかと不安がありましたが、むこうの方たちの支えがあり、日本のライオンズクラブさんの支えがあり、あっという間の20日間でとても充実した日々を送ることができました。

そしてこの留学のおかげで初めて自分の夢を見つけることができました。

今回の留学は私にとって一生忘れることのない、最高の経験になったとともに自分に自信を持つことができるようになりました。

このような機会をあたえてくださったライオンズクラブの皆様、この留学で自分にかかわってくださったたくさんの方々、本当にありがとうございました。



ピサの斜塔

イタリアでの思い出



LEO クラブメンバーと一緒に



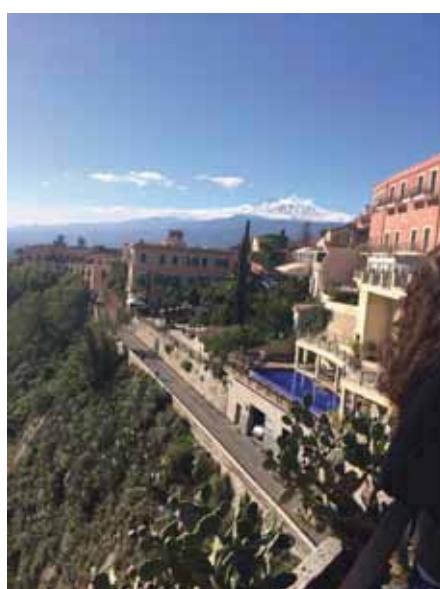
コッロセオにて



コインを投げました



CATANIA GLOENI LC 例会訪問



帰国ロビーにて

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区
「クラブ会長 会員増強セミナー」報告

336A-2R4ZC 神野顕彰

～おもしろきことみなきこの世を、おもしろく～

年新たまる 2014 年正月 11 日（土）午後 1 時半より、サンポート高松（第 60 回地区年次大会会場 2014.4/12 開催）に四国内 149 ライオンズクラブ会長又は、その全権代理者を対象に、武久国際理事、山地複合地区コーディネーター、第 1 、第 2 副地区ガバナー・石川名誉顧問の来賓、松前ガバナー以下キャビネット構成員 45 名のスタッフ、総勢 199 名の出席者を得て、2014 年 6 月 30 日までに会員総数を現在の 2 倍、1 万 598 名へと増強、奉仕力を 2 倍にするためのセミナーである。

当日、会場へ着き先ず驚いたのは、四国地区内から参集のセミナー受講の会長（全権代理者）及びスタッフが、ほぼ欠席することなく会場を埋めていることである。西条 LC からは原会長より全権委任の伊藤（修）会員委員長が出席である。私は現キャビネットスタッフとして、上記目標の提言者側という立場であるから内心複雑なものがある。

開会前には、正面スクリーンに山田第 2 国際会長のビデオレターが放映される中、お年玉ならぬ奥さまへのプレゼントを参集の各メンバーに直接手渡していく松前ガバナーの心遣いと御労苦を思いつつ、今般のセミナーにかける強い思いがうかがえた。

そして、定時より開会となる。

先ずは武久国際理事をはじめ来賓 4 名の方々による家族会員特別プログラムの現況説明と今後を披歴、以下、骨子を記す。

- ①当プログラムは 2006 年既にスタートしているが、日本は今だその成果上がらず、今後も推進していかなければならない命題である。
- ②LC に精通している方に不信感が多い。
- ③会員倍増計画を全うし、社会奉仕力倍増と活性化が目標である。
- ④この命題を解決するには、各クラブ会長に委ねる以外手段はない。
- ⑤強引と思われるが、引くわけにはいかない状況であり、ガバナーもつらい立場であり納得していただきたい。
- ⑥運営主体は各クラブであるが、国際協会の意向は無視できない。
- ⑦日本国内に 8 つある複合地区全体の共通テーマである。

次に松前ガバナーによる当セミナー開催の趣旨説明。以下要旨を記す。

- ①昨年 7/1 ~ 「ときめく明日へ ウィサーブ」をモットーにスタート。
7/10 ~ 米国でのガバナー任命式及び研修を終えて帰国後、高松フォーラムの開催。
8/23 ~ 名古屋での全国ガバナー協議会が 37 名全員集合のもと、「家族会員推進特別プログラム」を山田第 2 国際会長の提案で発表され大論争となる。まさに黒船襲来のごとき思いであった。
以後 3 回の連絡会議が開催され、直接各クラブ会長に問い合わせよとの厳命を得て、今回のセミナー開催となったことを説明
- ②パーマー国際会長の日本に対する強い信頼感をはじめ国際協会役員の賛同と大きな期待がある。
- ③この特別プログラムは明治維新の黒船襲来というより断髪令という感がする。
・・・（ちょんまげはおろしたが、その魂だけは不变であってほしい。）
- ④日本の心意気を世界の LC に是非とも発信していただきたい。
- ⑤実施する前から不平をいうのは止めよう。数字は大事。それを明確にするのが、現役員の使命。



⑥山田第2国際会長とシカゴでの対話に「3年後あなたは何をやりたいのか?」「各奉仕団体中、

最もノーベル平和賞候補として近い存在であることを大いに働きかける。」「国際協会の本部を日本へという夢を持つ。」「LC創立99年に就任、100周年を迎える時の国際会長として、強い発言力の背景を構築してくれないか。」と話された。

⑦山田第2国際会長へのプレゼントは、特別プログラム推進活動をとの思いで取り組んでほしい。

⑧現会員の奥さま全員をというアプローチをして頂きたい。

⑨現在、この件に関する意見で多いのが、

○品位が下がる。・・・(全く考えられない。)

○国際本部の集金能力アップ策ではないか。

・・・(多くの代議員を国際大会に派遣していただきたい。)

○正会員と家族会員両者の公平感に欠ける。

・・・(クラブ内規で調整していただきたい。)

○三年後の複合地区会費、地区会費は?

・・・(今、三年後のことは判断でき得ない。クラブ会費はクラブ内規をもって対応していただく。)

* * * * * 休憩時間挟みセミナー後半となる* * * * *

GMT 多田委員長・・・・・

「当地区選出の武久国際理事を盛り立て、山田第二国際会長に大いに活躍していただく場を提供するために特別プログラムを推進しようではないか。又、おもてなしの精神で開催のオリンピックで、各国から訪れる人々を迎えるため、日本の各クラブの共同奉仕を目指すというドリームプランを発揮しよう。LC創立60周年を迎える今年度の地区年次大会をマイクラブよりマイファミリーへと変節の年とする大変な1年となるが宜しくお願ひします。」等々と述べた後、前段に記した意見、質問を受ける。

最後に松前ガバナー・・・・・

会員が増えれば周囲の評価は変わる。それを継続しつつ奉仕力の倍増をもって2017年に開催されるオリンピック、パラリンピック、アビリンピック(肢体不自由者の技能コンテスト)を支援しようではありませんか。少子化は確定しているが、奉仕力は維持できる。2014年はそのスタート地点であり、日本魂と義理人情篤き心をもって取り組んでいただきたい!と締めくくる。

末尾になりましたが、副題の「おもしろきこともなきこの世を、おもしろく」は、幕末尊王攘夷派の長州藩士、松下村塾四天王の一人として、敗れはしたが日本初の奇兵隊を組織し、米仏連合艦隊と下関で激戦。後に幕府軍との四戦争を勝利へと導くなど破天荒かつ勇猛果敢、自由奔放才氣溢れる中、27歳で世を去った高杉晋作の名言である。

伊藤博文(俊輔)は弟分であり、行動を共にした間柄である。

後に高杉晋作を「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如く・・・。」と評し、西洋列強の植民地政策に対しても一歩も譲ること無く、その席上で古事記を朗々と語り、煙に巻いたことなど敬慕してやまぬことを記している。

この度の家族会員推進特別プログラムという相手が黒船ならば、この高杉晋作の心で取り組むのがよろしかろうと思った次第である。

・・・おもしろきこともなきこの世を、おもしろく!・・・

会

員

短

信

後堂 洋

1月23日で43歳を迎えたのですが、今の私の趣味は「ゴルフと書店めぐり」です。

40歳を過ぎた頃から、趣味が全くない自分に気がつきました。趣味を仕事にしてしまった所もあるし、実際、仕事以外に夢中になれることはありませんでした。

休日は、家でごろごろするくらいで、面白いものに出会ったりとか、興味のなかったものに引かれるということは、ほとんどなかったです。これから的人生、仕事だけでいいのか?

疑問を持ちはじめ、他にも何かできることを探していた時、突然、「銀行主催のゴルフコンペにでませんか?」とお誘いがあり、クラブもろくに握ったことのない私は天に導かれるように参加してしまったのです。

スコアは当然「147」の最下位でした。しかし、心が晴ればれとした充実感、満足感がそこにはありました。ゴルフはスコアという数字が出るので、目標設定がしやすく、自分の練習次第で上手くなれるし、様々な業種の人達との出会いもあり、自分探しの旅に出るような感じが新鮮でうれしくてたまりません。面倒くさがりやの私なので、練習よりコースに行く回数が多いので、少しずつしか上手くなっていますが(笑)

あと、書店なのですが、自分が見る棚は、大体決まったところにしか行かないと思います。



しかし、右左3m、5m動いて見て下さい。

思いがけない面白さに出会えるものです。自分の固定していたものを、視点を少しずらすことによって、自分の領域がどんどん広がっていくような気がしてなりません。



私は趣味を持ち始めたことによって、生活は格段に楽しいものになりました。これからも他の趣味に出会うかもしれません。

後、半生、充実した生活を送るためにも趣味を持つ力が大切な事だとつくづく思う今日この頃です。



Happy Life

発行者 会長
幹事
PR・広報委員長

原 育雄
高橋雅顕
村瀬文隆
明比紳一郎・塩出正照・國田経仁・合田直司
野間賢次郎・伊藤隆治・伊藤 稔

例会日 毎月 第2・第4火曜日 (12:30~13:30)
例会場 西条国際ホテル
発 行 西条ライオンズクラブ事務局
印 刷 プリントワールド ONO

編集後記

暦の上では春は立ちながら、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。皆様にはご多忙の中、会報誌の原稿投稿に御協力賜り、大変有難うございます。

これからも一段と厳しさを増す寒さ、風邪など引かぬようお体には十分気をつけてお過ごし下さい。

PR・広報委員 合田直司

西条ライオンズクラブ

〒793-0030 愛媛県西条市大町 771-1
西条国際ホテル1F
TEL(0897)56-3980
FAX(0897)56-9251
E-mail
ホーリー・ジ
saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp
<http://saijo-lions.org>